

# 地域における男女共同参画推進が進まない要因 ー 熊本県を事例としてー

## すべての人がイキイキと働き、生活をする地域社会であるためには？

- 国、県、市など行政は取り組んでいる!
- 長い間の課題であるにもかかわらず、なぜ 一向に改善しない？
- ジェンダー指数の低くさ



性別役割分業意識



自己の他者や社会への関わり方への意識（価値観）が関係している？  
地域によって異なる環境、文化、価値観が影響しているのでは？  
地域によって違う？



アンケート調査、分析を行って明らかにしよう！

性別にかかわらず活躍できる男女共同参画の推進

しかし、地域によって女性活躍の度合には差がある

その要因は一律ではない

(「男女共同参画白書 2015年版 特集 地域の活力を高める女性の活躍」)

地域における男女共同参画推進のために



その背景となる地域のジェンダー特性を解明することは重要

# I なぜ熊本？－ 熊本県の特徴

## 1. 熊本県の男女共同参画推進への取組

- ・2015年全国で初めて参加団体が共同で進める女性活躍戦略を策定  
目標：「男女がともに自立し支え合う多様性にとんだ活力ある社会の実現」  
重要な課題：固定的性別役割分業意識のない社会の実現のために、  
男女共同参画推進を県の取り組む

## 2. 熊本県の男女共同参画推進の現状

### (1) 男女共同参画に関する県民意識調査報告書 (2014年11月調査)

- ・「男性優遇であると感じている」が男女とも 6 割台
- ・「社会通念」「政治」で 7 割前後、「女性優遇」は1割弱。
- ・「家庭生活」「職場」「政治」「法律・制度」「社会通念」に関して、「現実には男女平等になっているし、自分も平等に行動している」と思っている男性が、女性よりも多い。

## (2) 熊本市民の意識調査結果

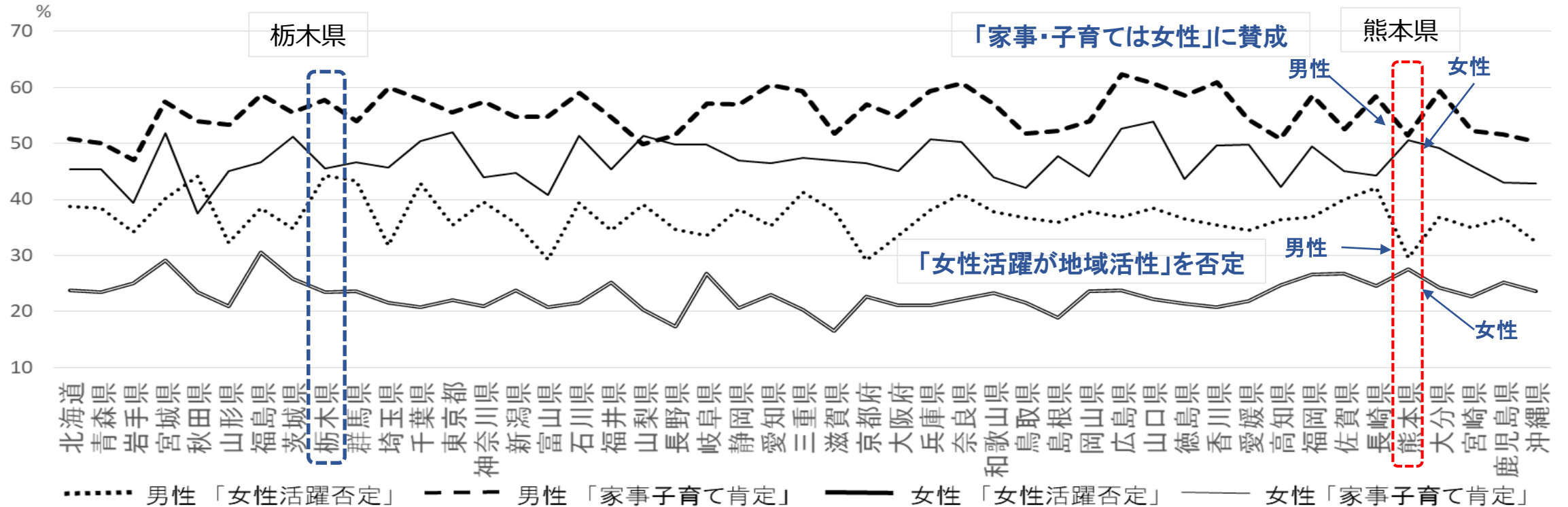
熊本市市民意識調査報告 2009,2014年自由記述)

男性の意識、女性の意識、  
それぞれの課題・・・

- ・「幼い頃から九州内を転々としたが、熊本が一番男尊女卑な考えが強いところだと思う (40代女性)
  - ・「なぜ偉そうにしている男性が多いのか」 (30代女性)
  - ・「熊本は肥後もっこすと言われるように頑固な男がいる」 (40代男性)
  - ・「夫の転勤で全国6カ所回ったが、熊本は女性の方が『女性は家事、育児を全面的に負担して当たり前』という固定的な性別役割分担意識を持っている人が非常に多いと思う」 (30代女性)
  - ・「女性の中には高い能力があるにもかかわらず、社会の中で発揮できないのは大変なロス」 (50代男性)
  - ・「特に熊本は女のくせにとか、男のくせに等という人が多すぎる」 (60代男性)
- etc..

### (3) 内閣府県民意識調査結果 (2015年)

熊本県は他都道府県に比べ、男性は家事育児肯定や女性活躍否定者割合が低く、女性は高い（男女の割合はほぼ同数）。このような結果を示す地域は他には見られない。



・女性活躍否定（男性・女性）：「女性の活躍が進めば、地域の経済社会が今よりも活性化する」に、「あまりそう思わない」「そう思わない」と答えた男女別割合  
 ・家事育児肯定（男性・女性）：「家事や子育ては、女性が行った方がよい」に、「そう思う」「ややそう思う」と答えた男女別割合

図 女性の活躍に関する県別意識調査結果

出所：地域における女性の活躍に関する意識調査 2015年 内閣府男女共同参画局より 筆者作成

#### (4) 地域（熊本）に根付く価値観（歴史文化の中で長い時間をかけてつくられた地域個別の意識）の共通認識

みなさんの地域は  
どうでしょうか？

##### ◆ 熊本男性の気質を表現する『もっこす』

⇒心に秘めて、外には出さない熊本男子の男気を表す。  
一方で偏屈で頑固、融通が利かない強情者といわれる（小林,2008）

##### ◆ 『肥後猛婦』

⇒明治以後男性中心の日本社会に根をおろした悪徳と悪習に挑戦するために、陣頭指揮をした女性将軍たちの多くは熊本出身であり、その女性たちを大宅（1967）は「肥後猛婦」と称した。  
その戦いは「男尊女卑の枠の中で、忍従の生活を強いられた悩みと模索の中であったからこそ（熊本黎明期の女たち 熊本市）」

##### ◆ 『肥後の引き倒し』『肥後の議論倒れ』

⇒熊本の人にはよってたかって足をひっぱり結局一人も成功しない、要するに「おれがおれが」が多いものだから話がまとまらない（渡辺,2012）

## Ⅱ アンケート

### 1. アンケート構成

自己観 p11 参照

「評価懸念」  
「独断性」  
「個の認識・主張」  
「他者への親和・順応」  
&

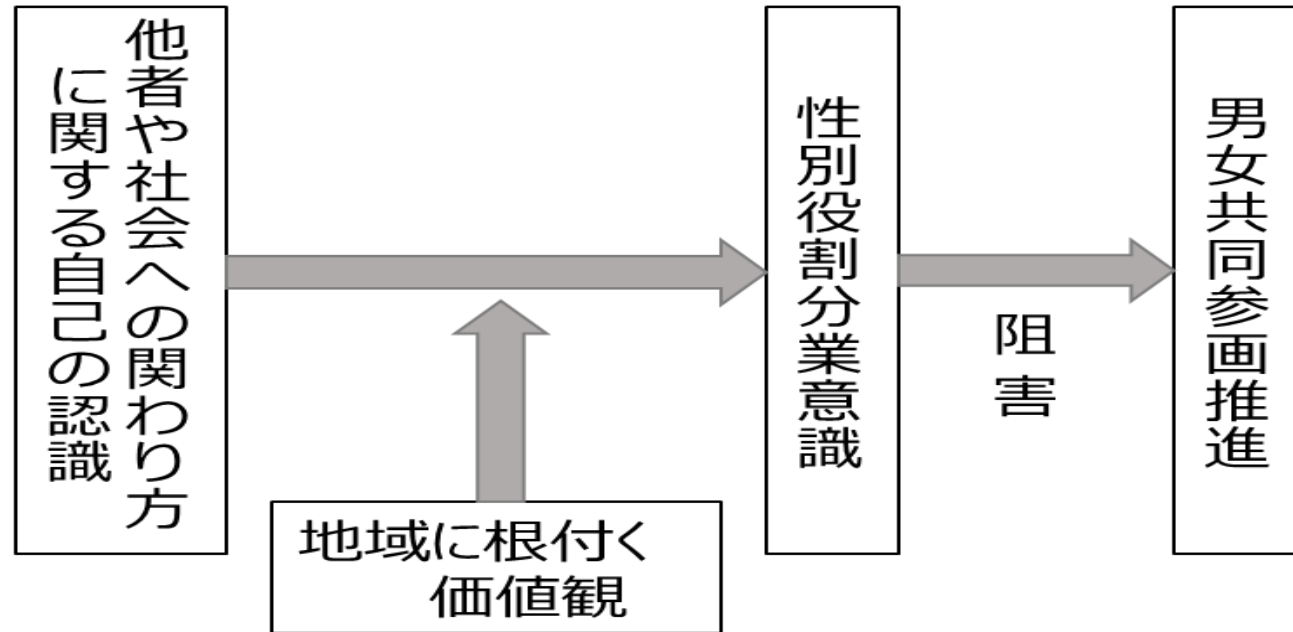
キャリア(働く) p12 参照

「ソーシャル・  
サポートの認識」  
「男女機会均等への期待」  
「自信と足を引っ張られる  
感の共存」

「固定的女性役割肯定」p10参照

「女性の家庭への愛情肯定」

「男女共同参画への反対」



『もっこす』『肥後猛婦』『肥後の引き倒し』『肥後の議論倒れ』



## 2. アンケート対象者

2017年10月4日から10月10日に全国の被雇用者に対し、Webによる質問紙調査実施  
無記名回答（「ぴったり当てはまる」=7 から「全く当てはまらない」=1 までの7段階）

対象者		歳	15-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65以上	合計
熊本以外全国：521人 (男:291 女:230)	1男性	人数	17	25	30	32	41	36	31	27	24	28	291
		%	2.1	3	3.6	3.9	5	4.4	3.8	3.3	2.9	3.4	35.4
熊本:305人 (男:170 女:135)	2女性	人数	17	21	23	24	31	30	26	22	17	19	230
		%	2.1	2.5	2.8	2.9	3.8	3.6	3.1	2.7	2.1	2.3	27.9
熊本	3男性	人数	11	15	19	19	24	22	19	17	15	9	170
		%	1.3	1.8	2.3	2.3	2.9	2.7	2.3	2.1	1.8	1.1	20.6
熊本	4女性	人数	11	13	14	15	19	18	16	14	11	4	135
		%	1.3	1.6	1.7	1.8	2.3	2.2	1.9	1.7	1.3	0.5	16.3

全国計521人 熊本計305人 合計人数 826人 1+2+3+4=100%

都道府県人数内訳  
分析対象者826名  
(東京・神奈川・  
千葉・埼玉・大阪・  
兵庫・愛知・静岡  
→35.2%  
熊本→36.9%)

回答者	北海道	青森	岩手	宮城	秋田	山形	福島	茨城	栃木	群馬	埼玉	千葉	東京	神奈川	新潟	富山
N	37	7	3	8	2	2	5	9	5	8	29	34	67	43	8	3
%	4.5	0.8	0.4	1.0	0.2	0.2	0.6	1.1	0.6	1.0	3.5	4.1	8.1	5.2	1.0	0.4
回答者	石川	福井	山梨	長野	岐阜	静岡	愛知	三重	滋賀	京都	大阪	兵庫	奈良	和歌山	鳥取	島根
N	2	1	1	5	7	12	34	5	5	14	49	23	6	4	4	2
%	0.2	0.1	0.1	0.6	0.8	1.5	4.1	0.6	0.6	1.7	5.9	2.8	0.7	0.5	0.5	0.2
回答者	岡山	広島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	長崎	熊本	大分	宮崎	鹿児島	沖縄	全体
N	9	11	4	5	6	7	2	17	1	8	305	0	0	5	2	826
%	1.1	1.3	0.5	0.6	0.7	0.8	0.2	2.1	0.1	1	36.9	0	0	0.6	0.2	100

### 3. アンケート項目

#### ◆ 性別役割分業意識についての3項目

1. 「固定的な女性役割肯定」：女性の固定的な役割を肯定する10項目  
⇒「重要な仕事をもっている、やはり女性の本来いるべき場所は家庭だ」など
2. 「女性の家庭への愛情肯定」：女性本来の家族や家庭への愛情を肯定する4項目  
⇒「愛情があれば、家族のために家事をすることは苦にならないはずだ」など
3. 「男女共同参画への反対」：男女の平等や女性の活躍を肯定する7項目  
⇒「女性も男性も職業に関して平等な機会を与えられるべきだ」など

## ◆他者や社会に対する自己の意識 – 文化的自己観 4項目

- 1.「評価懸念」： 他者 の眼差しや評価を気にする行動の傾向を表す4項目  
⇒「相手は自分のことをどう評価しているかと、他人の視線が気になる」など
- 2.「独断性」： 他者に配慮を払うことなく自分の判断に基づいて行動する傾向を表す6項目  
⇒「自分でいいと思うのならば、他の人が自分の考えを何と思おうと気にしない」など
- 3.「個の認識・主張」： 他者とは異なった存在としての自分を認識する傾向を表す4項目  
⇒「いつも自信を持って発言し、行動している」「自分が何をしたいのか常に分かっている」など
- 4.「他者への親和・順応」： 他者との和や同化を重んじる認識の傾向を表す5項目  
⇒「仲間の中での和を維持することは大切だと思う」など

## ◆他者や社会に対する自己の意識 – キャリア（働く）3項目

1.「ソーシャル・サポートの認識」： サポートに対する認識の3項目

⇒「自分のことをよく理解し、将来のことでアドバイスや励ましを与えてくれる人が、社内・外に大勢いる」など

2.「男女機会均等への期待」： 仕事にける男女平等に関する4項目

⇒「女性は男性とまったく同等の昇進の機会を持つべきである」など

3.「自信と足を引っ張られる感の共存」： 管理職としての自信を示すと同時に、足を引っ張られているという認識を示す5項目

⇒「自分の管理能力（企画力・判断力・統率力）は非常に高い」「同性や異性の仕事仲間に足を引っ張られることがいつもである」など

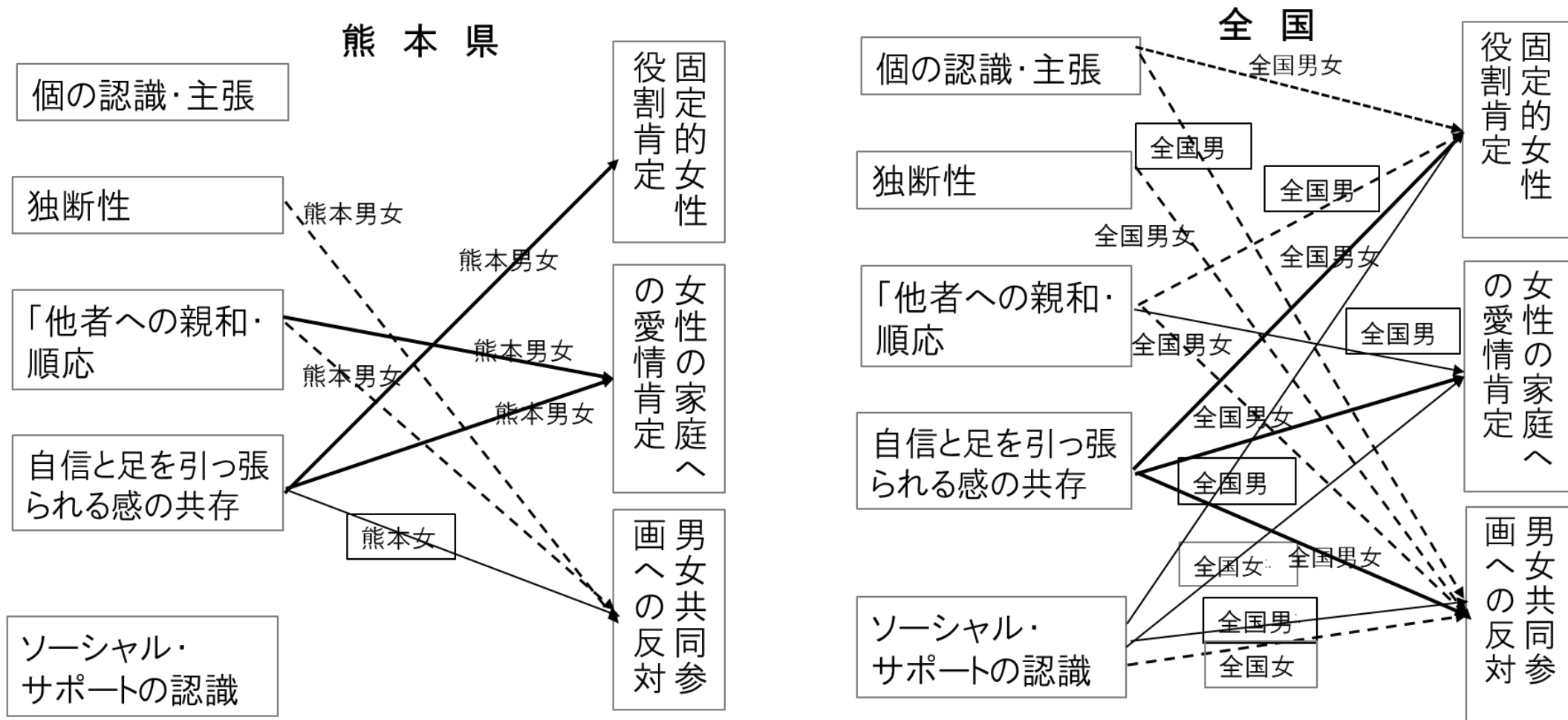
## 4. アンケート結果

### 全国と熊本の男女別平均

	全国男性 N=291		熊本男性=170		全国女性=230		熊本女性=135	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
年齢	45.27	13.28	44.36	12.96	44.51	13.52	43.01	12.46
未婚ダミー	0.35	0.48	0.34	0.48	0.51	0.50	0.46	0.50
子どもなしダミー	0.42	0.49	0.35	0.48	0.53	0.50	0.47	0.50
大卒以上ダミー	0.58	0.49	0.48	0.50	0.33	0.47	3.96	1.12
固定的女性役割肯定	3.46	0.89	3.36	1.03	3.22	0.91	3.36	1.00
女性の家庭への愛情肯定	4.39	0.87	4.24	0.94	4.23	0.92	4.23	1.13
男女共同参画への反対	3.10	0.93	3.13	0.92	2.89	0.94	2.91	0.92
評価懸念	4.16	0.85	4.07	0.95	4.29	0.91	4.31	0.84
独断性	4.32	0.66	4.40	0.72	4.41	0.76	4.31	0.84
個の認識・主張	4.30	0.86	4.24	0.90	4.12	0.84	3.98	1.00
他者への親和・順応	4.47	0.70	4.31	0.79	4.62	0.60	4.72	0.72
ソーシャルサポートの認識	3.95	0.89	3.87	1.11	4.02	0.98	3.96	1.12
自信と足を引っ張られる感 の共存	3.68	0.85	3.67	0.84	3.41	0.89	3.37	1.03

# 性別役割分業意識への影響要因：重回帰分析結果

## 性別役割分業意識3項目に影響を示す意識は、熊本と全国の男女で違う！



左：説明変数、右：被説明変数の重回帰分析結果

正の影響 → 負の影響 - - - ->

## 5. 分析結果からいえること

### 1. 自己の他者や社会への関わり方（文化的自己観）の性別役割分業意識への影響

#### 日本全国の課題

同化・協調意識の高さは女性の家庭への愛情を肯定し、同時に男女共同参画も肯定。  
→ 日本の課題と指摘されてきたが、男性と熊本女性でいえる。

#### 熊本の特徴

- ・熊本女性の同化や協調性の高さ vs 男性の低さ
- ・熊本男女では、「独断性」（いざとなったら何と思われても自分の正しいと思うことだけする）の高さと男女共同参画への賛成の高さ、の関係が大きい
- ・全国男女では、「自律意識」が高くなると、性別役割分業意識は低くなる。しかし、熊本男女では影響はない。

## 2. キャリア（働く）に関して

### 日本全国の課題

管理職としての自信はあるが他者に足を引っ張られる感が高い →「固定的役割肯定意識」、「男女共同参画への反対」が高くなる、ということが女性にも当てはまる。

→ 労働社会の中で頑張る女性の諦めや葛藤、他の女性への願望（自分以外の女性には性別役割分業を望む）!?

### 熊本女性

・管理職としての自信はあるが他者に足を引っ張られる感が、「固定的女性役割肯定」や「女性の家庭への愛情肯定」と大きな正の関係 → 熊本女性の活躍の場での葛藤やあきらめや、女性の家庭への愛情肯定の大きさが窺われる。

・ソーシャルサポートの高さは「男女共同参画の反対」に影響を示さない。→全国女性との違い

### 熊本男性

管理職としての自信はあるが他者に足を引っ張られる感の高さは「男女共同参画への反対」に影響していない →「ライバルは男性だけ」と感じている!?



### 3. 自己の他者への関わり方に関する意識（文化的自己観とキャリアに関する意識） と地域に根付く価値観や文化との関係

「性別役割分業意識」には自己の社会や他者への関わり意識が影響している。  
その影響の仕方は地域によって異なる。

#### 熊本男性

性別役割分業意識の否定や女性活躍の肯定意識は高い。  
一方、「同化・協調」は低く、「独断性」が高い、「同化・協調」や「自律」意識が「固定的女性役割肯定」に影響しない、自信と足を引っ張られる感は男女共同参画とは関係ない。

#### 熊本女性

同化・親和意識が高く、表面的には他を受け入れるが、「独断性」が「男女共同参画反対」に大きな正の影響を示す。

その要因には地域の文化に根付く価値観が影響している（熊本を例にすると）

アンケート結果の乖離を説明

### Ⅲ まとめ

1. 性別役割分業意識には地域に根付く価値観や地域特性が関係している。  
その背景を踏まえて、その地域の課題を明確にする。
2. 地域の個別性としてより大切にするとところと、変化しなければならないところについて、  
地域全員が理解して共有する。
3. 地域に根付いた男女共同参画推進のために、地域の特徴を踏まえた施策や目標  
の制定を行う。

## さいごに

熊本県は、「性別役割分業意識の克服がない限り  
法制の整備や公的機関を設置しても、真の男女共同参画  
は進まない」と謳っている。

地域における性別役割分業意識を複合的に検討する

→ 歴史文化の中で長い間形成されてきた価値観

→ その背景や課題を共有し、解決策を探る

具体的に、今私たちにどのようなことができるのでしょうか？  
何を実行すればいいのでしょうか？



ご清聴ありがとうございました！

